

病診 連携 NEWS

公益社団法人日本海員救済会
名古屋救済会病院

号外
医療連携室
052-652-7954

小児科 部長

星野 伸

SHIN HOSHINO



小児の成長発達のお話

お子様の身長、思春期発来は年齢に合っているでしょうか。成長ホルモン分泌不全性低身長、思春期早発症など治療できる病気が隠れているかもしれません。

成長発達に関する治療は、できる時期が限られています。3歳児健診、学校や幼稚園、保育園での身体測定の数値により、原因を検索した方が良い場合があります。成長曲線と骨年齢で評価をします。

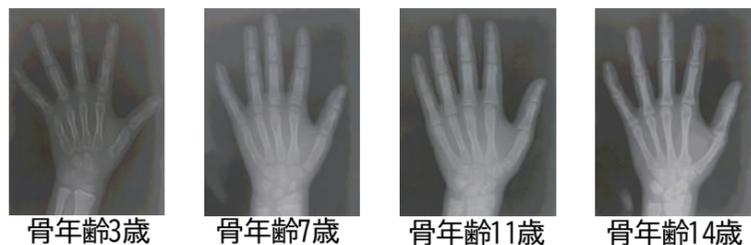
低身長と思春期早発症

低身長：標準身長-2SD未満(年齢ごとの基準値があります)。ホルモンの不足、体質や遺伝の要因、骨の性質、臓器の病気、栄養の問題など、原因は様々です。ホルモンの不足は、治療できる可能性があります。

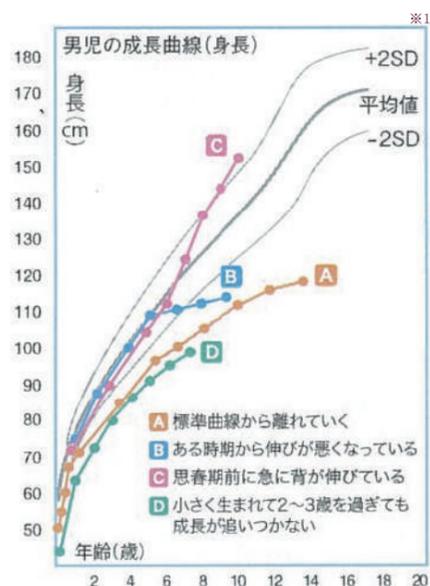
思春期早発症：早く二次性徴が始まります(男の子、女の子でそれぞれ年齢による基準があります)。腫瘍が原因の場合もあり、原因検索が必要です。

骨年齢

骨年齢手のレントゲン写真で判定し、暦年齢とギャップを評価します。骨端線が閉鎖してしまうと、これ以上の成長が望めません。治療は骨端線が閉鎖するまでの期間しかありません。



骨年齢3歳 骨年齢7歳 骨年齢11歳 骨年齢14歳



成長曲線

成長パターンは成長曲線で、継続的变化を見ていきます。

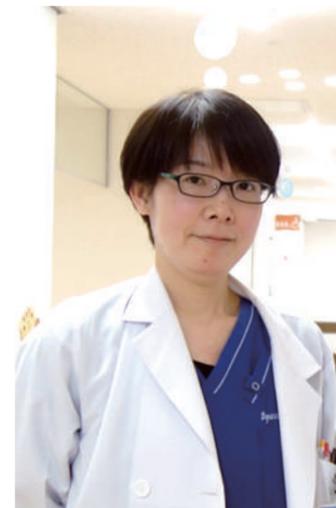
お子様がどこに位置するか、経時的に評価します。学校で測定されています。原因が推定できるものもあります。

図に示したパターンは受診をお勧めします。

※1 日本成長研究会HPより引用
※2 日本人小児TW2骨年齢(メディカルレビュー社)より引用

小児科 部長

木村 量子
RYOKO KIMURA



専門医がいる総合病院だからこそできるアレルギー治療を

当院小児科にはアレルギー専門医が2人おり、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギーなどの診療をしています。

アレルギー疾患は、一旦症状が良くなっても定期的に通院することがとても大切です。アレルギー外来は月・火・金の午後の予約外来です。

初めての方は一度午前外来でお気軽にご相談ください。



気管支喘息

気道の炎症が主体となる病気で、気道が狭くなり空気が通りにくくなり息苦しさが出現します。そのほかにも咳き込んだり、呼吸時にゼーゼー、ヒューヒューという音が出たりします。呼吸機能検査・血液検査なども行いながら、専門性の高い診療を行っています。また、鼻炎合併例に対しては、スギ花粉症の舌下療法(5歳以上)も行うことができます。

アトピー性皮膚炎

かゆみのある湿疹が、慢性的に良くなったり悪くなったりを繰り返す病気です。治療の基本は、①スキンケア(皮膚の清潔を保ち、潤いのある状態を保つこと)

②薬物療法(炎症を抑える薬による治療)
③悪化要因(アレルゲン、汗、ストレスなど)の対策の3つです。当院では、外来診療だけでなく、入院によるスキンケア・薬物療法の指導も行っております。

食物アレルギー

症状で多いのは、蕁麻疹・発赤などの皮膚症状、咳・喘鳴などの呼吸器症状、嘔吐・腹痛などの消化器症状で、ひどくなると顔面蒼白・ぐったりすることもあります。当院では、日帰り入院で食物経口負荷試験を行っています。入院して実際に少量から原因食物を摂取し、食物アレルギーの診断やどの程度でどのような症状が出るのかを確認します。負荷試験の結果をもとに、外来で食事指導をします。

	月	火	水	木	金
午前	吉村	松本	平尾	【神経外来】植村	吉村
	伊藤(祥)	木村	市川	星野	松岡
	松岡	—	—	長谷川/伊藤(祥)	—
午後	【小児心理外来】原田	【乳児検診】	【小児心理外来】原田	【小児心理外来】原田	【小児心理外来】原田
	【アレルギー外来】	【慢性外来】	【慢性外来】	【慢性外来】	【慢性外来】
	【予防接種】	—	【心臓外来】 深澤(第3・5週)	【発達外来】	【アレルギー外来】
	—	—	【心臓外来】(第2,4週)	—	—